

城下町高田

高田には、間口が狭く奥行きが深い「町家」や、石畳や格子戸のある「雁木」のまち並みなど、高田城の城下町として栄えたかつての面影が今もなお残っています。雁木とは、町家の軒や庇（ひさし）を伸ばした屋根の呼び名で、豪雪地帯の高田で冬期の生活道路を確保するため、居住者が私有地を提供し合い造られた、互助の精神を象徴する建造物です。高田に現存する雁木の総延長は約12kmで、日本一となっています。



上／交流与地域文化の継承・発信の拠点「旧今井染物屋」。
左／往時の面影を今に伝える石畳の「雁木通り」。



上／日本最古級の現役映画館「高田世界館」。 右／明治期の貴重な和洋折衷建築「旧師団長官舎」は、レストランとしても活躍。

